

# 正義の味方と自衛隊

conan0718sao

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

初めまして、ハーメルンでは初めての投稿になります。一応不定期更新になりますので連載となっていきますが、時々更新する程度だと思ってください。多分、半チートな主人公です。

# 目次

神様との談話	1
設定	3

## 神様との談話

「どこだ、ここは」

俺は目が覚めるとあたり一面が真っ白なところにいた。なんで、俺はこんなところにいるんだ？俺は確かにあの時に死んだはずだ。

「大丈夫か、マスター？」

「大丈夫ですか、マスター？」

「アーチャー、セイバー。なんで二人がここに？」

俺の疑問にアーチャーもセイバーも首を横に振り分らないと答えた。しばらく三人でこの状況について話していると突如声が聞こえて来た。

「すみません、遅くなつてしまいました」

白い光と共に彼女が現れた。彼女は金髪で翡翠色の目をした女性だった。きれいな女性だったが、俺は生前にもそういった人物をたくさん見てきたため変に緊張することはなかった。ふと、彼女を見ると彼女は不満そうに口を膨らませていた。なんで？

「私はあなたの心の声が聞こえるんです。ですので、先ほどあなたが思ったことは私に聞こえていたんですよ」

「ふむ、マスターが君のことをなんと言ったのかは知らんがこの状況と君についての説明を始めにするべきだと私は思うがね」

アーチャーは相手の不満を無視して質問する。まあ、確かになんで死んだのに此処にいるのか気になる。

「そうでしたね、私はあなた方の言うところの神です。次に此処のことですが私が作った空間です」

「だから、さっきは俺の心が読めたのか」

「はい、そういうことになります。続いて、なぜあなたをここに呼んだかになります、それは転生をしてもらいたいと思ったからです」

「ちよつと待つてください。なぜマスターが転生することになるのでしようか？」

俺もそのことが気になっていた。なんで俺を転生させようとするんだ？

「それはあなたの生前の見て私がそう思ったからです」

「俺の生前を？」

「はい、あなたの生前を無断で見させていただけました。普段はこういうことをしないのですが、さすがにあの時は緊急事態でしたので見させていただきました。そして、人間の業の深さというものを」

「そっか。なら、なぜあんなことの原因となつてしまった俺を転生させる必要があるんだ。俺以外に最転生させるべき人がいるだろう？例えば、アーチャーとか」

「やめてくれ、マスター。私も転生するべき人間ではない。そもそも、私は死んだ人間だ。誰かに望まれるならまだしも自分から望んで転生したいとは思わんよ」

すると、突如俺を白い光が纏った。

「転生した後はあなたの生前の姿のままです。後、転生する場所はgateの世界ですのでその世界で新しい目標も見つけてください。あ、もちろんアーチャーさんとセイバーさんも一緒ですよ。それでは、次の世界で頑張ってください」

ふー、やっと行きましたか。やはり彼は転生したがりませんでしたね。ですが、彼は絶対に報われるべき人間です。そんな彼があんな終わり方では悲しすぎます。

さて、彼の今後を見届けましょう。

## 設定

名前 神山 光輝（かみやま こうき）

年齢 28歳

特技 料理・掃除・洗濯・ゲームなど

苦手なもの 酔っぱらった女性・怒ったアーチャーとセイバー

光輝は小さい頃から霊がよく見えていた。あるとき、光輝は霊の力を自分に憑依させることができた。彼はその霊が普通のももの思っていたが彼が使っていた力は英霊の力であった。そんな彼は自分の傍に常にいてくれた霊のアーチャーとセイバーの二人と対話をすることもできるようになっていった。そして彼は後に成長し英雄となり死んだ。

得意な戦闘方法 アサシンのように音を立てず静かに倒したり遠くから射撃で倒すなど絡め技をよく使う。そのため、近接戦闘は苦手に見えるがかなり強い。よく使用する武器は剣と刀、弓である。現代武器も得意とし、刀の腕前はセイバーにアサシン佐々木小次郎よりも強いと言わしめたほど。

特殊能力 英霊の力を自分に憑依させて使うことが出来る。そのため、女性のサーヴァントを使うと女性になってしまう。他に英霊を実体化させることが出来る。

アーチャー

英霊エミヤである。このアーチャーはu b w後のアーチャーであって皮肉屋ではあるが正義の味方になるという想いを思い出し、いつの間にか座ではなく光輝のそばに居たため彼が大切な人を守るように力を貸すようになった。また、このアーチャーはf a t e ルト後の士郎である。

セイバー

言わずと知れた腹ペコ王こと青セイバー（アルトリア）。このセイバーはf a t e ルト後のセイバーでありアーチャーが別れた士郎だと知り、また以前対峙したアーチャーも士郎だったのかと知った。そのため、二人の光輝を見る目は子を見守る親のようである。因み

になぜマスター呼びだったのかという神が警戒する人物であったため名前ではなくマスター呼びであった。また、以前親バカのように光輝と連呼したため時折自重するようにと言われていた。

光輝がいた世界

現代より少し未来。人口問題を先進国が解決しようとした結果人口が急激に増加してしまったため小両利きに陥り、第三次世界大戦が勃発した。戦争は6年で終結し、その後は、魔獣が現れたりそれによってバイオハザードが発生し、人口は十分の一となった。

神

光輝を転生させた人物。また、光輝の前に現れるのが遅れた理由は他の神に光輝を転生させる説得をしていたため遅れた。また、光輝を自分の夫にしようとしており、いろんな異世界に行かせ信仰する人を増やそうともしている。また、他に行く予定の異世界はハイスクールD×Dやリリなのなど魔法がある世界である。